



政府統計

統計法に基づく
国の統計調査で
す。調査票情報
の秘密の保護に
万全を期します。

平成26年労使関係総合調査
労使コミュニケーション調査（事業所票）

この調査票に記入された事項については、他に漏らしたり統計以外の
目的に用いることはありませんので、ありのままを記入してください。

所在地			
事業所名			
都道府県番号	事業所一連番号	産業分類番号	労働者票
1	2		

記入 担当 者	所 属 部 課 名	
	電 話	() (内線)
	氏 名	
事業内容又は 主な生産品		

※ 調査票の記入内容について、照会させていただく場合が
ございますので、記入担当者の氏名等の記入をお願いします。

【記入上の注意】

- 調査票の記入にあたっては、各頁裏面の**記入要領を参照**してください。1頁の記入要領は、1頁裏面にあります。
なお、解説を載せた設問や用語については、表面と裏面の記入要領双方に1)、2)などの番号を振り、対応させています。
- この調査は、**事業所を対象**としています。同一の場所にある工場や店舗などが1つの事業所です。
問1(1)以外の設問は、原則として貴事業所について記入してください。
- 特に断りのない限り、**平成26年6月30日現在の状況**について記入してください。
- 回答方法
 - 黒又は青インクのペン、ボールペンで記入してください。
 - 特に断りのない限り該当する番号1つを選んで○で囲んでください。
回答欄が

1	2	3
---	---	---

 のように網掛けになっている場合は、複数回答となっています。
- 回答欄の選択肢に適切なものがない場合には、実態に最も近いものを選んで回答してください。
- 提出期限は**平成26年7月20日**です。
記入が終わりました調査票は、平成26年7月20日までに都道府県労政主管課又は所轄の労政主管事務所の職員が回収
に伺います。郵送で提出する場合には平成26年7月20日までに都道府県労政主管課又は所轄の労政主管事務所へ返送し
てください。

問1 貴事業所の状況についてお答えください。

- (1) 貴事業所が属する**企業全体**（本社・支社・営業所・工場等を含む）の常用労働者 1) 数は何人ですか。

5,000人以上	1,000人～ 4,999人	300人～ 999人	100人～ 299人	50人～99人	30人～49人
1	2	3	4	5	6

- (2) **貴事業所**の常用労働者数は何人ですか。右詰めで1マスに1字記入してください。

		千			人

- (3) 貴事業所には**正社員以外の労働者 2) 3)** いますか。

いる	いない
1	2

- (4) 貴事業所又は貴企業に労働組合がありますか。

ある	ない
1	2

1 頁記入要領

問1

(1)

1) 「常用労働者」

下記の①～③のいずれかに該当する者をいいます。

- ① 期間を定めずに雇用されている者
- ② 1か月を超える期間を定めて雇用されている者
- ③ 日々雇用されている者又は1か月以内の期間を定めて雇用されている者であって、平成26年5月及び6月の各月に各々18日以上雇用された者

なお、役員であっても常時勤務していて一般の労働者と同じ給与規則もしくは同じ基準で毎月の給与の支払いを受けている者や、事業主の家族であってもその事業所に常時勤務して給与の支払いを受けている者は含みます。

派遣労働者（派遣元事業所から派遣されてきている労働者）は除きます。

(3)

2) 「正社員」

貴事業所で正社員とする者をいいます。勤務延長者（定年年齢に到達後も退職することなく引き続き雇用されている者）、他社からの出向社員を含みます。

3) 「正社員以外の労働者」

上記 2) 「正社員」以外の常用労働者及び派遣元事業所から派遣された派遣労働者をいいます。

2 頁記入要領

問2

4) 「経営に関する事項」

経営状況や経営計画・方針、組織変更、新商品・サービス開発等をいいます。

問3

5) 「労働条件の個別的決定」

従業員個人が使用者側と、目標管理等について話し合っ、賃金などの労働条件を決めていくやり方をいいます。

問4

6) 「労使協議機関」

事業所又は企業における生産、経営などに関する諸問題につき労働者ないし労働組合の意思を反映させるため、それらに対して使用者と労働者の代表とが協議する常設的機関をいいます。通常、労使協議会、経営協議会等の名称で呼ばれているものがこれにあたります。

問5

(1)

7) 「労働協約」

この調査では、名称の如何を問わず労働組合と使用者又はその団体との間に結ばれる労働条件その他に関する取り決めをいい、書面により両当事者が署名又は記名押印して作成したものをいいます。

(2)

8) 「専門委員会」

労使協議機関の下部組織としての機関で、特定の事項を専門的に協議する専門委員会をいい、例えば、安全委員会、衛生委員会、（安全衛生委員会）、男女の取扱い委員会等があります。なお、規則等で定められた専門委員会のみで、上部に労使協議委員会を置いていない場合は除きます。

9) 「男女の均等取扱いに関する事項」

賃金、配置、昇進、教育訓練、定年・退職等に関する男女労働者の均等な取扱いに関する事項をいいます。

10) 「正社員以外の労働者に関する事項」

雇用・配置等に関する事項や労働条件に関する事項（正社員との均衡を考慮した待遇に関する事項を含む）、正社員への登用に関する事項、有期契約労働者の契約の締結・更新・雇止めに関する事項等をいいます。

<労使コミュニケーション全般に関する事項>

問2 貴事業所はどのような面での労使コミュニケーション（労使間の意思疎通）を重視しますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

経営に関する事項 4)	日常業務改善	作業環境改善	職場の人間関係	人事 (人員配置・ 出向、昇進・ 昇格等)	賃金、 労働時間等 労働条件	教育訓練	福利厚生、 文化・体 育・レ ジャー 活動	その他
1	2	3	4	5	6	7	8	9

問3 貴事業所において、過去5年間（平成21年7月1日～平成26年6月30日）で、労働条件の個別的決定 5) の対象となる従業員の割合が増加しましたか。（5年前と比較が困難な場合は、比較可能な範囲でお答えください。）

増加した	ほぼ変わらない	減少した	どちらともいえない
1	2	3	4

<労使協議機関に関する事項>

問4 貴事業所又は貴企業に労使協議機関 6) がありますか。いずれか一方にある場合も「1 ある」に○を付けてください。

ある	ない
1	2

→ 4ページの間6へ進んでください。

問5(1)～(7)について

- ① 貴事業所が**本社**の場合・・・**企業単位**の労使協議機関についてお答えください。
- ② 貴事業所が**本社以外の事業所**の場合で
事業所単位の労使協議機関がない場合・・・**企業単位**の労使協議機関についてお答えください。
事業所単位の労使協議機関がある場合・・・**事業所単位**の労使協議機関についてお答えください。

問5 (1) 労使協議機関の設置の根拠は何ですか。

労働協約 7)	就業規則	その他文書	慣行
1	2	3	4

(2) 労使協議機関の下部組織として次の事項を扱う専門委員会 8) はありますか。専門委員会がある場合は取り扱う事項について、1～8のうちあてはまるものすべてに○を付けてください。ない場合には「9 専門委員会なし」に○を付けてください。

専門委員会が取り扱う事項								専門委員会なし
生産性に関する事項	休日・労働時間に関する事項	給与に関する事項	安全衛生に関する事項	福利厚生（住宅施策を含む）に関する事項	男女の均等取扱いに関する事項 9)	正社員以外の労働者に関する事項 10)	左記以外の事項	
1	2	3	4	5	6	7	8	9

問5

(5)

11) 「パートタイム労働者」

正社員以外の常用労働者で、雇用期間の定めの有無や就業の時間や日数にかかわらず、貴事業所で「パートタイマー」、「パート」又はそれらに近い名称で呼ばれている者をいいます。

(6)

12) 「労使協議機関に付議する事項」

労使協議機関で話し合う事項をいいます。

13) 「経営に関する事項」

経営の基本方針の他、生産、販売等の基本計画、会社組織機構の新設改廃、新技術応用機器の導入等生産事務の合理化を含みます。

14) 「賃金・退職給付に関する事項」

賃金・一時金、時間外労働の賃金割増率、退職給付（一時金・年金）を含みます。

15) 「労働時間・休日・休暇に関する事項」

労働時間・休日・休暇、育児休業制度・介護休業制度を含みます。

16) 「人事に関する事項」

採用・配置基準、昇進・昇格基準、配置転換、出向、一時帰休・人員整理・解雇を含みます。

(3) 労使協議機関（専門委員会を除く）の開催形態は次のどれですか。

定期開催	必要のつど開催	定期及び必要のつど開催
1	2	3

12

(4) 従業員代表に**正社員以外の労働者**が入っていますか。正社員以外の労働者がいない場合は「2 入っていない」に○を付けてください。

入っている	入っていない
1	2

13

↓

→ (6)へ進んでください。

(5) 下表の**正社員以外の労働者**は従業員代表に入っていますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

パートタイム労働者 11)	パートタイム労働者以外の労働者
1	2

14

(6) 次の事項は労使協議機関に付議する事項 12) ですか。事項ごとに○を付けてください。1つの事項の中で、一部の内容のみ付議する場合も「1 付議事項である」に○を付けてください。

事 項	付議事項である	付議事項でない
ア 経営に関する事項 13)	1	2
イ 賃金・退職給付に関する事項 14)	1	2
ウ 労働時間・休日・休暇に関する事項 15)	1	2
エ 人事に関する事項 16) (勤務態様の変更を含む)	1	2
オ 教育訓練計画に関する事項	1	2
カ 定年制・勤務延長・再雇用に関する事項	1	2
キ 安全衛生に関する事項	1	2
ク 仕事と家庭の両立支援に関する事項	1	2
ケ 福利厚生・文化・体育・レジャー活動に関する事項	1	2
コ 正社員以外の労働者の雇用・配置等に関する事項	1	2
サ 正社員以外の労働者の労働条件に関する事項	1	2

(7) 平成25年（又は平成25会計年度）1年間における労使協議機関の成果についてお答えください。

ア 成果はありましたか。

成果があった	1	イ どのような点で成果がありましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。	労働組合との意思疎通が良くなった	企業活動の運営が円滑になった	労働環境の整備に役立った	従業員が会社の運営に関心をもつようになった	従業員の仕事に対する満足度が高まった	個別労働紛争が回避された	その他
成果がなかった	2								
どちらともいえない	3								

26

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

27

問6

17) 「職場懇談会」

管理者と従業員が職場（課・グループなど）を単位として一定の業務運営、職場環境等について話し合うための会合をいいます。ただし、労働組合が行う団体交渉は該当しません。

問7

(4)

18) 「派遣労働者」

労働者派遣法（注）に基づき労働者派遣業を行っている派遣元事業所から派遣されてきている者をいいます。

なお、貴事業所の事業内容が派遣業の場合は、他社から受け入れている派遣労働者の状況について回答してください。

（注）正式名称は「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」

19) 「左記以外の労働者」

正社員（1頁裏面問1(3)の2）を参照）、パートタイム労働者（2頁裏面問5(5)の11）を参照）、派遣労働者（上記問7(4)の18）を参照）以外の労働者をいいます。

一定の期間を定めた契約で雇用されている有期契約労働者や、定年退職者を一定期間再雇用する目的で契約し雇用されている者を含みます。「契約社員」、「嘱託」、「アルバイト」又はそれらに近い名称で呼ばれている者も含みます。

また、この調査では、日々雇用されている者であっても、平成26年5月及び6月の各月に各々18日以上雇用された者は含みます。

<職場懇談会に関する事項>

問6 貴事業所に職場懇談会 17) がありますか。ある場合は平成25年（又は平成25会計年度）1年間における開催の有無についてもお答えください。

あ る		な い	28
開催された	開催されなかった		
1	2	3	

→ 5 ページの間8へ進んでください。

問7 (1) 職場懇談会ではどのような事項について話し合いましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

経営方針、生産、販売等の計画に関すること	日常業務の運営に関すること	安全衛生に関すること	福利厚生に関すること	教育訓練に関すること	正社員以外の労働者に関すること	その他	29
1	2	3	4	5	6	7	

(2) ア 職場懇談会を開催したことによる成果はありましたか。

成果があった	1	30
成果がなかった	2	
どちらともいえない	3	

イ どのような点で成果がありましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

業務運営が円滑になった	職場の人間関係が円滑になった	職場環境が改善された	生産性が向上した	従業員の定着が良くなった	その他	31
1	2	3	4	5	6	

(3) 職場懇談会に**正社員以外の労働者**は参加しましたか。一部の労働者でも参加した場合は「1 参加した」に○を付けてください。正社員以外の労働者がいない場合は「2 参加していなかった」に○を付けてください。

参加した	参加していなかった	32
1	2	

→ 5 ページの間8へ進んでください。

(4) 下表の**正社員以外の労働者**は職場懇談会に参加しましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。それぞれの就業形態の労働者のうち一部の者が参加した場合も○を付けてください。

パートタイム労働者	派遣労働者 18)	左記以外の労働者 19)	33
1	2	3	

問8

20) 「苦情処理委員会」

賃金、配置転換、日常の作業条件等について、従業員個人の苦情を解決するための労使代表で構成される常設機関をいいます。

問10

(2)

21) 「話を聞いて納得したもの」

苦情処理委員会に苦情を申し立てた場合は、実際の救済等の手続きを待たずに、苦情聴取の段階において説明だけで納得して解決したものをいいます。

(3)

22) 「パワハラ」

同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為をいいます。

問11

(1)

23) 「外部の機関（公共の機関を含む）等」

都道府県労働局（都道府県労働局の総合労働相談コーナー、雇用均等室、労働基準監督署、公共職業安定所を含む）、都道府県の機関（都道府県の労働相談センター、労政主管事務所、都道府県労働委員会を含む）、裁判所（労働審判制度を利用した場合を含む）、社外の機関や専門家（カウンセラー、弁護士を含む）等をいいます。

(2)

24) 「都道府県労働局」

都道府県労働局の総合労働相談コーナー、雇用均等室、労働基準監督署、公共職業安定所を含みます。

25) 「都道府県の機関」

都道府県の労働相談センター、労政主管事務所、都道府県労働委員会を含みます。

26) 「裁判所」

労働審判制度を利用した場合を含みます。

SAMPLE

＜外部の機関等の利用に関する事項＞

問11 (1) 平成25年（又は平成25会計年度）1年間に、従業員との紛争を解決するために外部の機関（公共の機関を含む。以下同じ。）等 23) を利用したことがありますか。

あ る	な い
1	2

44



(2) どのような機関を利用しましたか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

都道府県労働局 24)	都道府県の機関 25)	裁判所 26)	社外の機関や 専門家 (カウンセラー、 弁護士等)	その他
1	2	3	4	5

45

問12 (1) 今後、従業員との紛争解決のため、外部の機関等を利用したいと考えますか。

利用したい	利用したいと思わない	わからない
1	2	3

46



(2) 利用したいと思わない理由は何ですか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

自社の実態 に即した 解決が できない	職場の 労使関係が 不安定に なる	解決までに 時間が かかる	解決に費用 がかかる	判断が 正確とは思えない	その他	特に 理由はない
1	2	3	4	5	6	7

47

＜労使関係についての認識＞

問13 労使関係の維持について、どのように認識していますか。労働組合がない場合は、従業員一般との関係についてお答えください。

安定的に 維持されている	おおむね安定的に 維持されている	どちらとも いえない	やや不安定である	不安定である
1	2	3	4	5

48

以上で質問は全て終わりです。
調査にご協力いただきありがとうございました。